

科目ナンバリング		U-LAS70 10001 SJ50					
授業科目名 <英訳>	ILASセミナー：1×2×3×4=サステイナブル ILAS Seminar:1x2x3x4=Sustainable			担当者所属 職名・氏名	フィールド科学教育研究センター 教授 徳地 直子 フィールド科学教育研究センター 特定助教 張 曼青		
群	少人数群	単位数	2単位	週コマ数	1コマ	授業形態	ゼミナール(対面授業科目)
開講年度・ 開講期	2025・前期	受講定員 (1回生定員)	15(15)人	配当学年	1回生	対象学生	全学向
曜時限	木5	教室	農学研究科本棟N283(北部構内)			使用言語	日本語
キーワード	森里海連環学 / レジリエンス / 中山間地 / well-being						
[授業の概要・目的]							
現在、都市に人口が集中し、その暮らしに自然を感じることは少なくなっています。そして、あらゆる生活の基盤は自然の創造物に依存しているのに、それらが産み出される現場（森や川や海）や過程との解離は大きくなっています。その結果、自然がないがしろにされ、地球温暖化や生物多様性の喪失など多くの環境問題が生じ、加えて、地域ごとに多様であった里山を囲んだ暮らしは画一化し、暮らしの中に存在した様々な多様性も失われています。これらの結果、現在のような暮らしが持続できないのではないかと考えられています。 このセミナーでは森に着目し、木材を調達するところからスタートし、製材加工・製造、デザイン、マーケティングといった、木材が森から伐採されて製品となって私たちの手に届くまでのプロセスから、自然と暮らしのつながり、そして持続可能性について考えます。また、フィールド実習では、地域で森の価値を捉え直す活動が続ける株式会社飛驒の森でクマは踊る（ヒダクマ）やモノづくりに携わる職人さんに協力していただき、実際にモノ作りを行います。 これらの活動を通じて消費者や研究者ではなく実践者の立場から、地域や産業の様々な課題と向き合い、持続可能な暮らしについて再検討し、自分なりの持続可能性について考えるきっかけにしたいと思います。自然や林業に興味がある人やデザインや建築に興味がある人等、理系・文系問わず参加してください。							
[到達目標]							
森里海、さらには人と自然が連環することの意義について理解する。 地域の自然資源、文化的資源などの情報を収集、整理し、利活用から持続可能性を考えられるようになる。							
[授業計画と内容]							
講義予定 各課題についてそれぞれ1から2回を予定している。また、週末を利用して上賀茂試験地、さらに飛驒市（6月21-22日）でのフィールド実習を行う。授業回数は講義・実習・フィードバックを含め全15回とする。 持続可能な社会への動き 持続可能性についての座学・意見交換 上賀茂試験地での里山実習（半日程度） 広葉樹を用いた地域産業の視察とモノづくり（6月21-22日で飛驒市を予定。） 持続可能性を伝える方法（3回程度） 持続可能とはどういうことか・意見交換							
[履修要件]							
同時に開講している森里海連環学系科目「森里海連環学I」ならびに「森里海連環学II」を受講することが望ましい。							
ILASセミナー：1×2×3×4=サステイナブル(2)へ続く↓↓↓							

ILASセミナー : 1×2×3×4 = サステイナブル(2)

[成績評価の方法・観点]

各回でのディスカッションへの参加（50点）、毎回の小レポート・最終レポート（50点）などから総合的に判断する。

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

（参考書）

森林立地学会 『森のバランス』（東海大学出版会）

山下 洋 編 『森里海連環学』（京都大学学術出版会）

（関連URL）

<https://fserc.kyoto-u.ac.jp/wp/>(フィールド科学教育研究センターHP)

<http://fserc.kyoto-u.ac.jp/wp/kamigamo/>(上賀茂試験地HP)

[授業外学修（予習・復習）等]

フィールドセンターのHPなどを通じて、森林に関する情報を得ておくこと。

[その他（オフィスアワー等）]

学生教育研究災害傷害保険に各自必ず加入しておくこと。

実習開催時期により、成績の登録が前期に間に合わない場合があります。

オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。

上賀茂試験地での実習の交通費（1000円程度）が必要です。

[主要授業科目（学部・学科名）]